

議長就任のごあいさつ

神崎市議会議長 片江 護



市民のみなさまには、平素から、市議会に対し深いご理解とご協力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、平成22年の神崎市2期目の市議会議員選挙から早くも2年が経過する中、去る4月24日の臨時議会におきまして新たな体制が整い、私は議長としてご選任いただきまして、身に余る光栄に感謝いたしますとともに、この責務の重大さに身の引き締まる思いでございます。

神崎市の財政状況は一段と厳しさを増す中、福祉サービスの充実・教育施設の整備・農業や商工業など地域産業の振興・道路や下水道など生活インフラの整備と、各分野で課題が山積しております。

今日、市議会に対する市民の皆様のご期待は非常に大きく、私といたしましても、地域の特色を生かした、均衡ある神崎市の発展を最優先に、職責を全うする所存であります。

議会運営に当たっては、開かれた議会を目指すために、全議員の意見を尊重し、議会においては執行部と議論を重ね、公平かつ円滑に進めるべく誠心誠意を持って努力いたしますとともに、行政と議会は車の両輪と言われるように、バランスを保つためにも「追認機関」でも「抵抗勢力」でもない、市民の皆様が目線に立って行政と対等に渡り合える議会へと力量を身に付け、職務に全力を傾注する決意でございます。

市民の皆様におかれましては、引き続き議会に対しまして、ご支援、ご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます、就任のご挨拶といたします。

副議長就任のごあいさつ

神崎市議会副議長 木原 憲 治



平成22年より4年間の任期で神崎市監査委員を行ってまいりましたが、今回副議長に選出して頂きその重さを感じ取っております。ただ2つの職務を兼務する事は共に重責であり難しく、また過去に兼務された事例が無いとのことで監査委員を辞退し、副議長職に専任する事に致しました。私の、座右の銘は「不易流行」です。「不易」とは時代がどんなに変わろうとも決して変えてはいけないもの、変わらないものをさし、企業であれば、創業の精神や基本理念・スローガンなどで、時代がどんなに変わろうとも決して変えてはならない、変わらないものです。

また「初心忘るべからず」「初志貫徹」といった諺も、最初に思った志しはいつまでも忘れてはならない変えられない不易の部分です。

「流行」とは時代と共に変えていくべきもの、変るものです。

常に新しいもの、アイデアを取り入れて時代にマッチしなければ、時代に取り残されて企業であれば倒産してしまいます。この様に、「不易・流行」とは、相反する言葉ですが、この使い分けが大事だと、十数年前に経営コンサルタントの研修の中で学びました。

この言葉は、経営学だけでなく、全ての事に当てはまる事と思います。

今後も、最初に志した気持を忘れることなく、常に新しいもの、アイデアを取り入れて、益々の神崎市発展の為に邁進して行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。